

主体性のある探究学習で自分らしさと多様な視点を育む アオバジャパン・インターナショナルスクール

アオバジャパン・インターナショナルスクール(以下、アオバ)は、幼稚園から高等部までIB(国際バカロレア)の認定を受けたIBワールドスクール。異文化を理解し、国際的な視野を育む学習環境のもと、帰国生もスムーズに学校生活に馴染めるような様々なサポートを行っています。アオバの学びの特色やサポート体制について、お話をうかがいました。



お話を伺った方
入学課：
橋本ペリンダ氏

スクールカウンセラー：
高見澤秀男氏

グループ学習で知識を深め培う 「コミュニケーション」

アオバの多くの授業は、グループワークによる協働学習(Collaborative Learning)によって行われます。例えば初等部では、まず探究学習の大きなテーマについて教員から導入の授業を受けた後、それぞれの知識や考えなどをグループで話し合い、共有し、学びを子供たちが主体的に進めていきます。

「3〜4人の生徒がグループとなり、対話しながら学ぶことで、互いに知識を深め合い、多様な視点を身に付けるとともに、効果的なコミュニケーションの方法を学んでいます」(橋本氏)。

生徒の興味や疑問からスタートし、科目の枠を超えて自ら選んだテーマを深く掘り下げる探究型学習(Inquiry-Based Learning)はアオバの学びの特色の一つです。PYP(幼初等部)では、「Who we are」[Sharing the Planet]など、6つの

テーマについて教科の枠を超えて探究。例えば、初等部1年生での「How the world works」のテーマ探究では、

天然資源、特に光をどのように人は利用しているかなど、身近なことから学びます。そして、学年が上がるとともに同テーマでも深く掘り下げ初等部6年生では戦争や貧困、環境破壊といった国際的な社会課題を探究しエクシビションを行います。

学びの過程で重視されるのは 生徒自らが学びを進める力

こうした学びの過程でアオバが重視するのは、生徒の主体性(Student Agency)です。生徒たちが自ら意思決定し、責任を持って行動する力や姿勢を育て、将来、実社会で必要とされる力に繋がるスキルと知識を培います。「生徒たちは課題のリサーチのために、自分たちで自治体や企業に電話連絡することもあります。自己紹介や課題の説明、訪問の約束を取り



つけるなど、大人でも難しいことなので、当然、失敗することもあります。私たちは、その失敗を次に活かすために、どうすればよいかを考える、リフレクション(振り返り)を重視し、体験を通して多くのことを学ぶ生徒たちを見守ります」(高見澤氏)。

MYP(中等部)の生徒たちが行うミュージカル・パフォーマンスは、協働での探究学習や芸術の要素を備えながら、生徒の主体性を育む学びの集大成といえます。脚本や楽曲制作から演出・演技・ダンス・舞台美術など、全てを生徒が企画・準備し、最後にパフォーマンスを披露するなか、それぞれが自分の役割を決め、何をすべきかを考えて一つの舞台をつくりあげます。今年度は「Singin' In The Rain(雨に唄えば)」のミュージカルを生徒や保護者に披露しました。

社会性を学ぶ授業と カウンセラーによるサポート

帰国生にとっては、新たな環境に馴染めるかどうか、気がかりの一つです。アオバでは、授業として「SEL(Social Emotional Learning)：社会性と感情の学び」の時間を設けることで、生徒たちの自己理解や感情をコントロールする力、他者への共感力、健全な人間関係を築き、維持する力を養っています。

また、生徒の精神的な悩みなどについては、個別に、専任のスクールカウンセラーが生徒に合わせて英語や日本語など多言語でサポートします。

「コミュニケーション力は十分なのに、新しい仲間の輪に入るのが難しい、アオバで初めてIBの授業を受け、なかなか馴染めないなど、生徒たちの抱える悩みはさまざまです。私たちは入学時点から、生徒自身と日々、対話を重ねながら、保護者や教員と密接に連携して情報を共有し、きめ細やかな心のケアを行っています」(高見澤氏)



PR

アジア初！100%オンライン DPプログラムスタート!!

2025年8月から、IBO(国際バカロレア機構)の認可を得たアジア地域で初めてのオンラインDPプログラムを開始しました。オンキャンパスで受講するIBDPと同等のカリキュラムですがフルオンラインで、経験豊かなIB教員によるライブ授業やグループでの協働学習を実現。生徒同士のつながりや主体的な学習の促進を目指し、課外活動や学校行事もオンラインで開催します。

対象となるのは、東京(日本標準時)との時差が±3時間以内の地域に住む16~19歳の生徒で、海外滞在中の受講も可能です。

オンラインIBDP卒業後は、オンキャンパス卒業生と同様に高校卒業資格が取得でき、日本を含め、世界中の大学へ進学できる道が開けます。

帰国生の入学について

アオバの新年度は8月始業、基本的な出願受付は10月中旬~12月までですが、帰国生の帰国タイミングに応じた出願受付や、年度途中での編入学にも柔軟に対応しています。

但し、学年の枠に空きがあれば年間を通じて児童・生徒を受け入れています。一般出願の期間中に多くの学年が定員を満す可能性が高いため、帰国後に入学を検討されているご家族で、一般出願期間を過ぎてからの出願の場合には、できる限り早めに入学課へ問い合わせ頂くことをお勧めしています

英語・学習サポート

アオバでは、日本語の授業以外はすべて英語で行われますが、インクルーシブ・サポート・モデルを採用し、英語などの学力が各学年のレベルに達していない子供たちには、同じクラス内で他児童・生徒と一緒に学びながらサポートを受けられるプログラムを提供しています。

各授業の学習内容に沿い、個々のレベルに合わせて英語4技能を使ったコミュニケーションがスムーズにできるよう、教科担任とサポートスタッフが共同で計画・指導します。

グループでの学習時なども、子供たちが内容を十分に理解したうえでグループワークに参加できるよう、学習ニーズを把握し、サポートしています。

日本語学習・日本文化体験プログラム

アオバの日本語学習は、帰国生など、日本語を母語とする子供たちを対象とする「JLA」、第二言語として日本語を学ぶ「JAL」の二つのプログラムを導入。初等部から高等部にかけて、他教科の学習内容とも関連づけながらレベルに合わせて日本語を学びます。

また、日本の伝統工芸職人を講師に招き、和傘づくり等の日本の伝統文化を体験するプログラムのほか、修学旅行で、日本各地の神社仏閣を訪ねるなど、日本の文化を、体験を通して学ぶ多様な機会を設けています。

